

在京テレビは報道しない… 〇〇に狙われる沖縄

「土人」発言を 招いたもの…

2016年10月18日、沖縄で米軍ヘリパッド移設工事の警備中、大阪府警の機動隊員2名が移設反対派に対し、「どこ掴んどんじやコラ、ボケエ、土人が」、「黙れこら、シナ人」と発言し、「戒告の懲戒処分となった。TBSなどは、完全に反対派の立場に立つて報道した。しかし、そもそも警官たちはなぜそこまで怒っていたのだろうか？東京のテレビ局がなぜか報道しない、驚きの事実をまとめてみる。

平和活動とは 思えぬ暴言群

「八つ裂きにしてやる」「お前の家は分かってるぞ」「街を歩く時は気をつけろ」…沖縄県議会で野党自民党が提出し、否決された意見書案には、県警から聞き取った反対派の警官に対する暴言が列挙されていた。

「米軍の犬、政府の犬、お前らは奴隷だ、乞食、人殺し、戦争に行つて死ぬ、家族の顔をネットでアップしてやる、火炎瓶や鉄パイプで闘う方法もある、トラツクに轢かれて死ぬ、街中にお前の写真をばらまいてやるぞ、お前の家まで街宣してやる」等々…(産経新聞が詳しく報道したネット記事→<http://urx.red.znzb>)。



動画URL (<http://urx.blue/zpu8>)

お前たちの家もわかるんだぞ！
妻子たつてわかるんだ、ほか者！

米軍兵士やその妻子も標的となり、車を叩く、車の前に立ちちはだかる、「米兵死ね」「ヤンキー」「ゴーホーム」等の罵声を浴びせるのも日常茶飯事。この様子は動画(<http://urx.blue/zoq0>)で確認できる。

違法行為や暴力、逮捕者も

活動家による検問や道路への座り込み、工事車両への進行妨害等には地元民も困つており、農家が区に抗議。

また、基地や周辺農地への不法侵入に加え、警官、防衛局職員、違法行為を咎めた人らに暴力をふるう者もいる。9月28日、防衛局は県警に暴行の被害届を提出。8月にも職員がケガを負わされたという。

ゴミを基地に投げ入れ、フェンスにガムテープ等を巻きつけ汚すといった迷惑行為には、地元民が清掃ボランティアグループを発足させ対処しているが、フェンスのテープの中にガラス片を入れる等の嫌がらせもあり、指をケガした人もいるという。(この件は、CS放送局のチャンネル桜「沖縄の声」などが報道)

他にも、県議会で報告された反対派の行いには「基地に出入りしている業者の



勝手な検問



座り込みや違法駐車も



警官の顔を叩く活動家

動画URL (<http://urx.red/zo36>)

自宅に半年間犬や猫の死骸を放り込む」というものもあった。

8月11日、警官を転倒させた韓国籍の男が現行犯逮捕された。10月4日には住所不定・無職の男が防衛局職員への傷害で逮捕、のち基地侵入等の罪でも起訴。

10月17日には、活動家の中核である沖縄平和運動センター議長山城博治がフェンス上の有刺鉄線を切つて器物損壊で逮捕。同19日には傷害などで再逮捕、昨年12月にも基地侵入で逮捕されている。山城は元沖縄県庁職員(自治労副委員長)で、社民党から立候補したこともある。

一部マスコミや文化人は、警官の「土人」発言を「沖縄差別によるもの」と曲解するが、実際はどこの出身かは関係なく、野蛮な言動を繰り返す者たちに向けられた言葉だったことは明らかである。

活動家は地元 の人間じゃない

沖縄出身の弁護士・高原文三郎氏は、10月22日放送の関西の読売テレビ「あさパラ!」でこう述べた。「反対派は沖縄人じゃない。少しは地元民も混ざっているが、地元民にすく迷惑がられている。ツイッターや動画でも上がつてるので、ぜひ見てほしい」。元日本共産党幹部の筆坂秀世氏も、2013年11月3日放送の「そこまで言つて委員会」で、「僕は沖縄にも親戚が一杯いるが、あまり反対運動なんか無い。県民皆が反対派のような報道は事実と全く違う。基地反対の何千人集会とかやつても、旗見たらほとんど××(ピー音)。給料や日当貰つてみんな行つてる。」と暴露していた。

これを裏付ける情報の1つとして、在日朝鮮人が共同代表を務める某反差別団体が、「往復の飛行機代5万円を支給します。沖縄・高江に市民特派員を送ろう」と広告したチラシがネットで話題に。「高江5万円」で検索すれば画像が出る。

北朝鮮や中国の影が…

産経の報道(10月30日)によると、反対派も一枚岩ではなく、活動のため移住した新住民や、共産党系等の活動家は基地侵入は控えているという。過激なのは県内外から山城の支援に来たプロ市民だ。

週刊新潮(11月3日号)では、反対運動を統率する実行委員会の代表が、前述の山城博治で、山城が議長だった沖縄平和運動センターの事務局長は、大城悟こと本名:パク・ホンギョ(元大阪の中学校教師)で、パクが沖縄で活動を始めたのは元妻の指示だったこと等が報じられた。その元妻は、過去の複数の新聞報道等から共産党シンパの活動家と推察される。

ネットで閲覧できる朝鮮総連の機関紙「朝鮮新報」によると、1998年の北朝鮮のキム・ジョンイル総書記推戴1周年・共和国創建50周年祝賀宴に、当時の沖縄平和運動センター関係者らが出席しており、親北思想が伺える。

また、米議会の諮問機関は、「中国が沖縄の反基地運動を煽り、密かな支援や米軍へのスパイ活動を展開している」と警告している(雑誌「正論」2016.9月号)。「シナ人」発言も「こんな背景があったのだ」。

※このチラシは、マスコミの偏向報道に危機感を持つ主婦が、インターネットを通じて見ない方々のために作成しました。いかなる団体・政党・宗教とも無関係です。2016.11.3作成